

## 海技者という職業の魅力を紹介 ～ 神戸大学（海事科学部）1年生向け講演会を開催 ～

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを設置し、商船系大学・高専や海技教育機構とも連携しつつ、優秀な日本人船員（海技者）確保のための様々な広報活動等を行っている。

その一環として、12月19日（金）、神戸大学海事科学部1年生の授業の一環として、同大深江キャンパスにおいて、海運業界の概要や海技者の業務等に関する講演会を開催した。

（講演会の様子）



講師・司会を務めた商船三井 川村船長

今回の講演会は、同学部1年生対象「海事社会学」の授業の一環として、わが国にとっての海運業の重要性と、それを担う海技者の役割やその魅力等について理解してもらうとともに、将来の職業選択の入り口となる学科選択の手掛かりとしてもらうべく開催したもので、約40名が参加した。

講演会では、まず、商船三井 川村大平 船長から、世界経済と人々の暮らしを支える重要インフラである海運業の概要を説明するとともに、海運業が「成長産業」であることや海運業界の環境保全への取り組みについて各種データを交えて紹介、さらには海技者の業務とキャリアパスや、海技者に求められる素養等についても説明した。

続いて、商船三井、日本郵船、川崎汽船の若手現役海技者が、自らの体験を基に、海技者を志した動機や学生時代に準備しておくべきこと、本船での業務や生活、下船後の休暇の過ごし方に至るまで、海技者を将来の選択肢としてより具体的に意識してもらえよう、学生の目線に立って話を進め、学生達は、真剣な眼差しで「先輩」方の話に耳を傾けていた。

また、講演後の質疑応答では、陸上勤務の際の業務内容、外航と内航の違い、女性船員の占める割合等、様々な質問が出され、川村船長が丁寧に対応した。

日本船主協会では、今後も船員教育機関と連携しつつ、優秀な日本人海技者確保の諸活動を継続していく。



左から、商船三井 辻田遼平 三等機関士、日本郵船 芝章真 三等航海士、川崎汽船 小林亮久 二等機関士